

ふじさん

fujijoho group monthly magazine

～ 2024年指針 ～

富士情報

適者進取

[今月のひとこと]

ギャンブル依存症

- ・2024年度入社式
- ・将棋の8大タイトル
- ・八十八夜
- ・稚内



ミツバツツジ

写真提供：鳴沢村 企画課



ギャンブル依存症

社長 渡辺 直 企

LA ドジャースの大谷選手の元通訳水原一平容疑者が訴追されました。違法賭博の借金を返済するため、大谷選手の口座から胴元側に 1600 万ドル（約 24 億 5 千万円）以上を不正に送金したそうです。大谷選手の信頼を利用した悪質な犯罪です。水原容疑者は自らをギャンブル依存症だと告白しています。一日あたり 25 回、一回あたり平均 200 万円、合計 1 万 9 千回の賭けを行い 218 億円勝ちましたが 280 億円負け、累積損失が 62 億円になったそうです。厚生労働省の「ギャンブル依存症の理解と相談支援の視点」によりますと、2016 年のギャンブル依存症の患者数は 2,929 人ですが、潜在的な依存者は 320 万人もいるそうです。この資料の中で有害なギャンブル行為は・負けを取り戻すためギャンブルをする・ギャンブルを重要なものだと思う・借金、家職場のお金に手を出す・逃れるためにギャンブルをする・ギャンブルについて嘘を付く、秘密にする、などの要素があるとのことです。

京都大学の楠見孝教授は「無謀な賭け」に関する実験を行いました。無謀な賭けに関するこれまでの研究では、事前に多くの勝ちを経験するとその後の賭けが無謀になりやすいということが示されてきたそうです。ただし、このグループは感情が安定しており、回数を追うごとに無謀さは減少していききました。一方、多くの負けを経験したグループは暫くは無謀な賭けを避けますが、次第にネガティブな感情が増加し次第に無謀さが増大しています。これはギャンブル依存症の中核症状である損失を取り戻そうとする負け追いと関連性を示唆するとしています。

先述の公表された数字から(想像で)概算してみます。水原容疑者は総額 380 億円(=200 万円/回 × 19,000 回)を賭けたことになります。海外のスポーツベッティングはブックメーカーのマージンは 5%くらいが多い様です。残りは参加者で山分けすると考えると期待値は 95%と考えて良いと思います。この期待値で 380 億円賭けた場合、損失は 19 億円となります。水原容疑者は 280 億円負けたとのことなので、218 億の勝ちに対する掛け金は 100 億(=380 億-280 億)となります。勝率は 26%(=100 億/380 億)、平均して 2.18 倍(=218 億/100 億)となるような賭けをしていたことがわかります。損失が 62 億ですのでリスクを取った結果、平均的な期待値に対して 3 倍以上の損失が出ていたことがわかります。水原容疑者の期待値は 57.4%ですので、宝くじの 45.7%より少しマシという程度です。

2 倍のオッズに対する賭けの戦略として、倍賭け法と呼ばれる「マーチンゲール」という手法があります。これは負けたら、負けた額の倍の額を賭け、更に負けると先程の賭け金の倍を賭ける、負けたら更に倍を勝つまで続け、勝ったときに最初の賭け金に戻して繰り返す、という手法です。配当が 2 倍以上のギャンブルでは資金が無限にあれば理論上勝てるそうですが、倍々と指数関数的に賭け金が増えていきます。早い段階で賭け金の上限に達するなどの理由で実用的ではないそうです。水原容疑者は平均すれば 2.18 倍のオッズですが、似たような手法で負け追いの状況に陥ってエスカレートしたのかも知れません。

我々の身の回りには合法的なギャンブルがいくつかあります。先述の厚生労働省の資料では低リスクのギャンブル行為の特徴として・ギャンブルに使うお金や時間が限られる・勝ちを楽しむが、それが偶然だとわかっている・負けを受け入れる。負けを取り返そうとしない、などが示されています。ギャンブル依存症になった結果、水原容疑者は MLB のヒーローから信頼される立場を失ってしまいました。ギャンブルをする場合でも依存症になる可能性を排除することを意識して付き合う必要があると考えています。